



日英語の心的語彙情報処理に関する研究

保健福祉学部 理学療法学科
准教授 高島 裕臣 (たかしま ひろおみ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2515号室

E-mail takashima@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 心理言語学, 英語教育学

キーワード： メンタルレキシコン, 心的語彙情報処理過程,
リーディング, リスニング

● 現在の研究について

認知心理学的手法によってメンタルレキシコンと心的語彙情報処理過程の研究をしています。メンタルレキシコンとは、「心の中に辞書のようなものがあって、私たちはそこから情報を取り出してきて言葉を使っているのではないか」という発想から生まれた用語です。心的語彙情報処理過程は、語形や意味など単語に関する知識が心の中から取り出される時どのようなことが起こるかというプロセスです。以下が主要な業績です。

■ 読みが単一の漢字と複数の漢字の情報処理

複数読み漢字よりも単一読み漢字の方が、音読反応時間が早いことを示しました。複数の読みがあると読みの候補間で競合が起こるようです (Kayamoto, Yamada, & Takashima, 1998)。

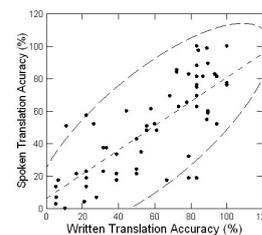
■ 英語語彙 4,000 翻訳正答率データベース

英単語を日本語訳する際の正答率のデータベースで、日本人大学生の英語語彙知識全体をカバーします (高島, 2002; 高島・山田・國本・竹内, 2000)。英文難易度を予測する変数として、英文読速度の個人差・文章差の研究に活用するなどしました (高島, 2005; 高島・本岡, 2009)。

■ 語彙情報処理の母語話者—学習者連続性

前述の日本人大学生の英語語彙翻訳正答率と、母語話者の語彙判定・音読反応時間との有意な相関を明らかにしました (Takashima, 2009)。

■ リスニングとリーディングのパラレリズム



英語の読解と聴解に、似た現象が観察されることを「パラレリズム」と捉えて研究しました。例えば、同じ英単語を、見て訳す場合と聞いて訳す場合の反応時間・正答率に有意な相関があるとわかりました (高島, 2015)。

■ メンタルレキシコンの縮小に関する研究

ある日本人女性が83歳時から93歳時にかけてどの程度漢字知識を失ったか調査しました。10年間隔で漢字音読テストをし、平均で年1%漢字知識が縮小すること、音読成績に漢字の習得容易性と習得時期とが影響を与えること、誤反応は視覚的誤りが多いこと、を発見しました (Takashima & Yamada, 2010)。

● 今後進めていきたい研究について

これまでにない新実験手法を考案したいです。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

心理言語学の実験手法は「脳トレ」への応用や簡易な認知機能チェックに応用可能かも知れません。他分野の専門家と連携すればそのような方面から地域・社会に貢献できる可能性があります。

● これまでの連携実績

これまでのキャリア (中学校, 高専・高専専攻科, 大学での英語教員) を生かし三原シテカレッジ (市民講座)「英語学習への誘い」で講師を担当しました。